



令和4年度たむら支援学校地域支援センター特別支援教育研修会より

7月27日(水)に田村市文化センターにおいて、令和4年度たむら支援学校地域支援センター特別支援教育研修会を実施しました。文部科学省初等中等教育局 視学官(併)特別支援教育課特別支援教育調査官である 菅野和彦氏 を講師としてお招きし、『自立活動の指導と各教科等の授業力向上～カリキュラム・マネジメントから～』というテーマで御講演いただきました。その中で、自立活動の指導について、とても重要な視点を学び、理解を深めることができましたので、以下のように整理しました。ご確認ください。

文部科学省初等中等教育局 視学官(併)特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦氏の講演内容から

自立活動の指導とは

学校の教育活動全体を通じて指導する自立活動

小学部・中学部学習指導要領(第1章第2節の2の(4))

2. 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、第4節の1に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の(1)から(4)までに掲げる事項の実現を図り、児童又は生徒に生きる力を育むことを目指すものとする。

(4) 学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、**自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。**特に、**自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、**個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握して、**適切な指導計画の下に行うよう配慮**すること。

密接な関連を保つとは

(例) 各教科等と密接な関連を保つということ

「自立活動の時間の指導」(手先の不器用さが顕著にみられる児童)
・対象物を注視して腕を伸ばして触れたり、つかんだりすること。力の加減や動作等に関係する感覚を受け取る感覚(固有覚)を活用すること。言語の受容と表出などを関連付けた指導

「生活科」1段階「生命・自然」の内容

・具体的な指導内容として、学校の身近に生息する草花に、触れたり、関心をもったりして、それらを教師と一緒にみんなに伝えようとする授業

【関連を保つということとは】

例えば、生活科の指導目標を達成するための指導内容である草花に、触れたり、関心をもったりするために、自立活動で指導していることを生かし、対象物を捉え、草花に腕を伸ばして触れたり、採取したり、自分の表出手段で伝えたりできるように、配慮や手立てを示すことが考えられる。

各教科の指導目標の達成に迫る授業が展開できるよう、両者が補い合って、効果的な指導が実践されることが重要

<自立活動の指導とは>

①自立活動の時間における指導

②学校教育全体を通じて行う指導

(各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動)

※①と②は密接な関係を保つ

<各教科等と密接な関連を保つとは>

各教科等を指導する際に、各教科等の目標を達成するために、自立活動の時間の指導で取り上げる内容と関連付けて**自立活動の視点を踏まえた配慮や手立て**を示す。

各教科等を合わせた指導の形態で、自立活動の指導を行う際の留意点

- 「合わせている各教科等」と「自立活動の指導」のどちらも評価をしていく必要がある。
- 自立活動の個別の指導計画を作成し、個別の指導目標を設定している。
- 各教科等を合わせた指導の形態で、個別の指導及び個別の指導目標の達成が可能かどうか。

たむら支援学校での自立活動の取組

本校の教育課程では、「自立活動の時間における指導」については、年間35時間を確保し、各教科等を合わせた指導の形態で指導しています。また、学校の教育活動全体を通して指導しています。(本校教育計画参照)このことを踏まえ、個別の指導計画(様式3-1)を作成して、自立活動の指導目標を設定しています。また、各教科等を合わせた指導の年間指導計画に、自立活動の指導内容や時数等を明記し指導の根拠を明確にして授業実践に取り組んでいるところです。

菅野和彦氏の講演内容をふまえると、本校として十分に実践できていること、今後も努力していくべきことなどがあります。裏面で本校の取組を整理してみました。今後につなげていきたいと思えます。

たむら支援学校での自立活動の取組

自立活動の個別の指導計画 (様式3-1)

児童生徒の実態を書き出し整理していく中で、課題を抽出していく。それらの課題等を踏まえて指導目標を設定している。

指導目標を踏まえ、具体的にどのような指導内容で、どの学習場面で指導を行うかを明記している。

生活単元学習年間指導計画(例)

学年	単元	単元学習の目標	単元学習の時間	単元学習の場	単元学習の方法	単元学習の成果	単元学習の評価	単元学習の振り返り	単元学習のまとめ	単元学習の振り返り	単元学習のまとめ
1	生活単元学習	生活単元学習の目標	10	10	10	10	10	10	10	10	10
2	生活単元学習	生活単元学習の目標	10	10	10	10	10	10	10	10	10
3	生活単元学習	生活単元学習の目標	10	10	10	10	10	10	10	10	10
4	生活単元学習	生活単元学習の目標	10	10	10	10	10	10	10	10	10
5	生活単元学習	生活単元学習の目標	10	10	10	10	10	10	10	10	10

生活単元学習や日常生活の指導等の年間指導計画において、単元や題材ごとに、様式3-1(左図)をもとに指導内容や時数を明記している。

たむら支援学校での自立活動の実践例

本校では、各教科等を合わせた指導の形態で自立活動の指導を行っています。その際も、小集団での共通の活動を通して、複数の児童生徒の課題に対応した内容を工夫することで、主体的に困難さを改善・克服し、個別の指導目標を達成していくことが可能です。具体的な実践例を紹介します。

1つの活動を通して、子どもの指導目標に応じて働きかけを工夫している実践例



「ビーズ通し」の活動を通して、注意を持続させながら対象物に注目してビーズをひもに通すこと【環境の把握】、対象物の位置を意識して目と手の協応動作を高めていくこと【身体の動き】、繰り返し手元の活動に落ち着いて取り組むことで、情緒の安定を図ること【心理的な安定】など、1つの活動を通して児童一人一人の目標達成に迫ることをねらって実践している。

授業の中で複数の活動を準備することで、個に応じた指導目標の達成に向けて工夫している実践例



活動①「電車リレー」の活動を通して、相手のペースに合わせることや、相手に声を掛けてやりとりをしながら活動することをねらいとしている。
【人間関係の形成】
【コミュニケーション】



活動②「ラダーを使った両脚飛び」の活動を通して、目印に注目して両脚から着地するなど、状況を把握して適切に体を動かすことをねらいとしている。
【環境の把握】
【身体の動き】

自立活動の個別の指導計画を作成し、各教科等を合わせた指導の年間指導計画に自立活動の指導内容、時数等を明記している。指導の中で個別に対応しながら個別の指導目標の達成に向けて授業内容を工夫をし組み立てて実践していく。これらのことを通して、各教科等を合わせた指導の中で取り扱っている自立活動の指導内容、時数等について検証し、その妥当性を高めていくことが、自立活動の指導の専門性の向上につながっていくと思います。

